

働き方・働く場の意識調査を乃村工藝社が実施 4人に3人が「オフィス空間は必要だと思う」 課題は、「一体感の醸成」と「企業文化・組織風土の継承」

社会課題の解決につながる空間価値を提供している株式会社乃村工藝社（港区台場）は、2021年11月に国内の20歳以上のワーカー300名を対象に働き方と働く場の意識についてアンケート調査しました。本調査は新型コロナウイルス感染症の影響により「どこにいても働ける」という新たな働き方の選択肢が浸透し始めた時期に、ワーカーが抱える課題や意向を把握し、ワークプレイスの価値を見つめなおすことを目的としたものです。本調査は2014年・2018年にも実施しました。

調査結果ハイライト

総合満足度トップ^① ハイブリット勤務型^②*

アフターコロナにおける希望の働き方

- ・ 全世代の62%：「ハイブリット勤務」かつ「オフィスに出社する割合が高い勤務」
- ・ 全世代の74%：「オフィス空間は必要だと思う」

課題

- ・ 働き方の形態問わず全世代：「職場の一体感」への満足度が低い傾向
- ・ 20～30代の若年層：「企業文化・組織風土の継承」に不安や課題を感じている

20～30代の若年層が今後重要視したいこと

- ・ 「コミュニケーション・コラボレーションの促進」「働き方の多様化・ダイバーシティの促進」

*オフィスへの出社とリモートワークを併用する働き方

新時代のワークプレイスに期待されること

ハイブリット勤務が経常化するなか、ワークプレイスはリモート勤務でもできる「仕事場」から、出社することで生まれる価値創出につながる「創造性のある場」になると乃村工藝社は考えます。さらに、社員の多様性を活かしなが一体感の醸成や、企業文化や理念の見える化・社内外の浸透につながる役割も期待されるでしょう。社員の充足感がビジネスを活性化させ事業の持続成長につながります。

- ・ 多様な価値観を活かしあい、アイデアの共有やディスカッション、偶発的なコミュニケーションができる空間
- ・ 社員と会社、社会がつながり、活き活きと働いたり、会社への愛着・誇りを感じるウェルビーイングな空間
- ・ ハイブリット勤務を踏まえた効率的なオフィス運用



乃村工藝社新オフィス「RESET SPACE 2」



乃村工藝社新オフィス「クリエイティブフロア」

乃村工藝社は、引き続き今回の調査や当社がリニューアルした新オフィスの運用状況を検証していきます。本データとクライアントの経営方針・提供価値・働き方をふまえ、すべての人が安心して働けるニューノーマル時代のワークプレイスを実現していきます。

乃村工藝社 [ワークプレイス特設ページ](#)のご案内

様々な場所で働くハイブリット型の勤務が加速するなか、オフィスをリニューアルし、社員がよりよい働き方を実現し、イノベーションや持続的な成長につなげている事例を紹介しています。最新セミナーの情報や資料もご覧いただけます。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社乃村工藝社 広報部 岡村 prs@nomura-g.jp

調査概要 ※本調査内容を引用掲載の際は、「乃村工芸社調べ」と明記をお願いします

調査名：あなたの職場と仕事についてのアンケート

調査対象：全国の20～60代、自営・自由業を除く、従業員数50名以上の会社にお勤めの方300名

調査方法：インターネット調査（日経リサーチ）

実施時期：2021年11月5日～8日

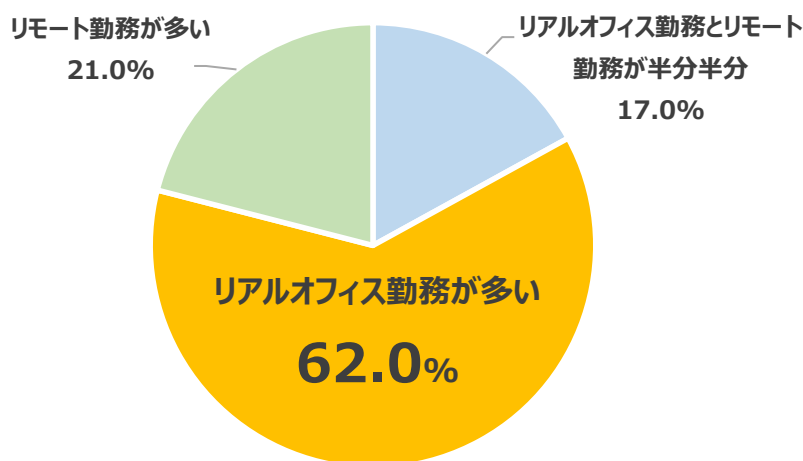
調査詳細

1. 総合満足度はハイブリット勤務型が最も高い。

アフターコロナにおける働き方の希望は、全世代の62.0%がハイブリット勤務の中でもオフィスに出社する割合が高い勤務スタイルを希望。

[グラフ1] 今後アフターコロナにおいて、あなた自身が希望する働き方はどのようなものですか。（ひとつだけ）（回答者 N=300）

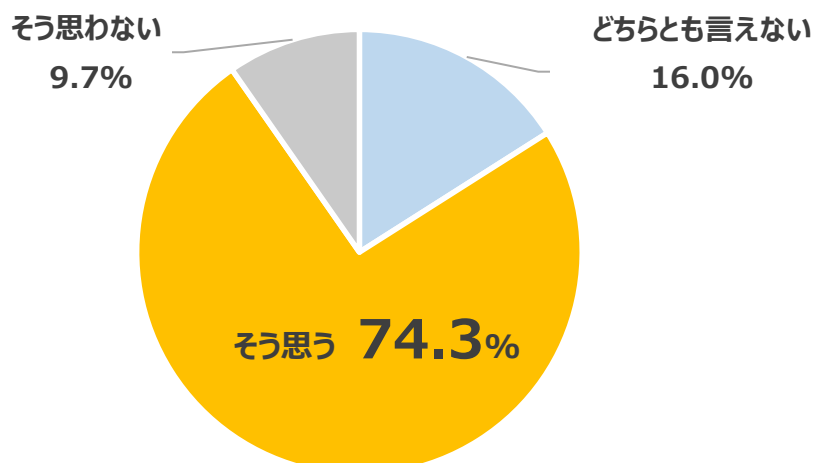
※選択肢：「1.ほぼ100%リアルオフィスで勤務」「2.どちらかと言えばリアルオフィス勤務が多い」「3.リアルオフィス勤務とリモート勤務が半々」「4.どちらかと言えばリモート勤務が多い」「5.ほぼ100%リモート勤務」（1・2の回答者を「リアルオフィス勤務が多い」群、4・5の回答者を「リモート勤務が多い」群とする。）



2. 74.3%が「オフィス空間は必要だと思う」と回答。

[グラフ2] 今後アフターコロナにおいて、あなたが働いている会社には「リアルオフィス」は必要だと思いますか。（ひとつだけ）（全回答者 N=300）

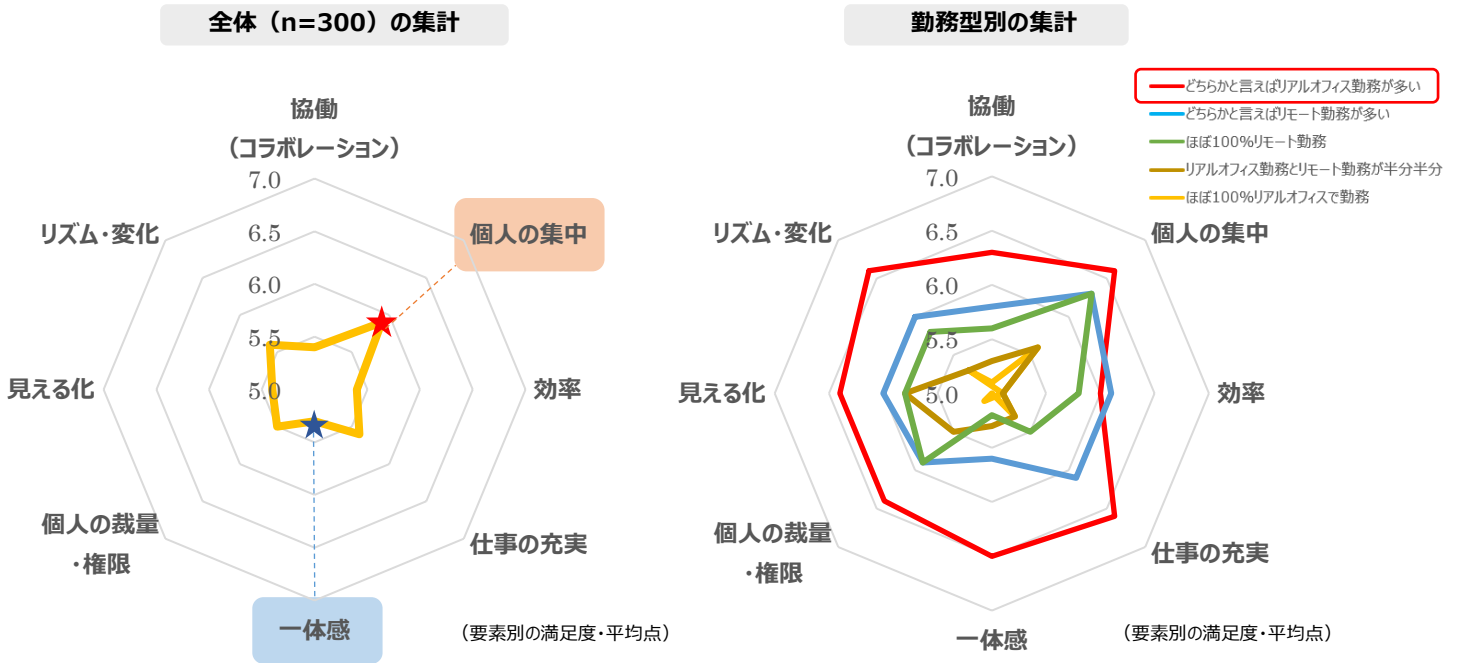
※選択肢：「1.そう思う」「2.ややそう思う」「3.どちらとも言えない」「4.あまりそう思わない」「5.まったくそう思わない」（1・2の回答者を「そう思う」群、4・5の回答者を「そう思わない」群とする。）



3. 職場における満足度は「個人の集中」が 5.9 と最も高く、「一体感」が 5.3 と最も低い傾向に（10 段階評価）。総合満足度が一番高いのは、出社比率が高いハイブリット勤務。

職場における満足度はどの働き方でも「個人の集中」が最も高く、リモート勤務率が高いと「個人の集中」の満足度も高くなりました。満足度が最も低いのは「一体感」で、出社・リモート勤務問わず全体的に低い傾向にあり共通した課題であると考えられます。

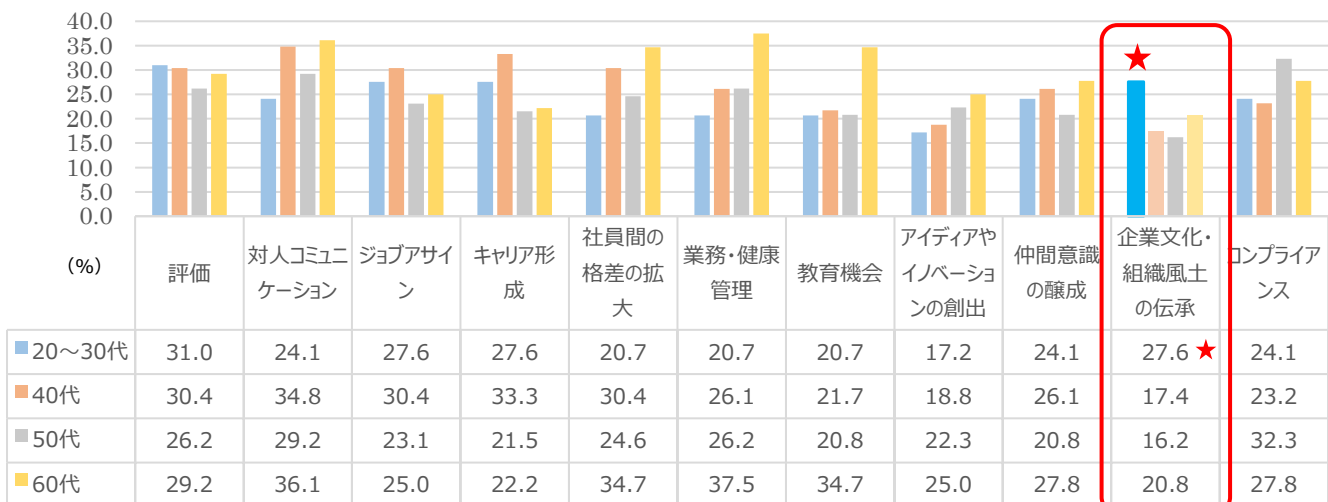
[グラフ 3] あなたは、職場に対して以下に挙げる各要素のうち最も満足な要素は何だと思いますか。（ひとつだけ）（全回答者 N=300）
※選択肢は「協働（コラボレーション）」「個人の集中」「効率」「仕事の充実感」「一体感」「個人の裁量・権限」「見える化」「リズム・変化」「どれも重要でない」



以下、20~30 代の回答に着目しました

4. アフターコロナの働き方で不安や課題に感じているのは、20~30 代が「企業文化・組織風土の継承」。

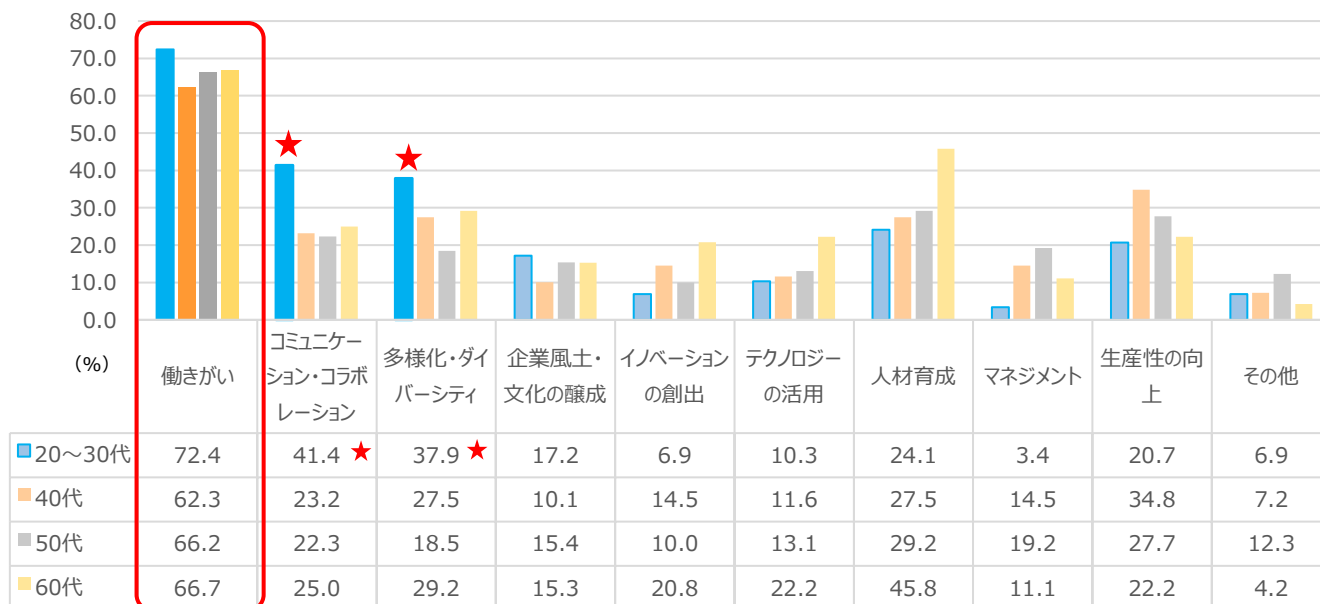
[グラフ 4] 今後アフターコロナにおける「働き方」について、以下の項目に対する不安や課題を感じていますか。（それぞれひとつずつ）（全回答者 N=300）



5. 全世代が、今後最も重視したいのは「働きがい・モチベーションの向上」。
20～30代は「コミュニケーション・コラボレーションの促進」「働き方の多様化・ダイバーシティ」。

[グラフ 5] あなた自身が、今後最も重視されそうなテーマはどれですか。(ひとつだけ) (全回答者 N=300)

※選択肢：「従業員の働きがい・モチベーションの向上」「従業員や組織の間のコミュニケーション・コラボレーションの促進」「働き方の多様化・ダイバーシティの促進」「企業風土・文化の醸成」「イノベーションの創出」「テクノロジー・AI の導入・活用」「人材育成・人材開発の促進」「マネジメント（健康経営含む）の強化」「生産性の向上」「その他」



乃村工藝社について

1892年の創業以来、商業施設、ホテル、ワークプレイス、博覧会、博物館などのさまざまな空間の総合プロデュース企業として、全国9拠点を展開し、プランナー、デザイナー、プロダクトディレクターなどの専門職が総計1,000名以上在籍しています。創業から120年以上にわたり培ってきた総合力とデジタルテクノロジーを活かし、地域活性化をはじめ社会課題の解決につながる空間価値の提供で人びとに「歓びと感動」をお届けしています。現在、事業を通じて持続可能な社会の実現のためのソーシャルグッド活動を推進しています。